

6月4日(日)



当店で一枚一枚丁寧に開いた

アジの開き

250円

1枚 250円 (税込)

西田鮮魚店 072-5246

御用聞き便専用番号 090-7125-5489 (旧庄原市内はご自宅に配達)

御用聞き便ポイントカード 火・水曜日ポイント2倍

先日の駅フェスではアジフライ弁当を販売させていただきました。皆様大好評をいただき誠に有り難うございました。仕事を終えて家に帰ると、「アジフライ弁当は？」と家族にせがまれ、完売したことを伝えると、「えーっ！つもお土産無いん!!」と集中攻撃を受けてしまいました(笑)。今の時期、鱈は脂がのって美味いから、今度家でアジフライ作つてあげるよとその場をなだめ、はや数日。普段と変わらないの仕事中、突然「今週アジを広告にするわ〜」……自分でも約束を忘れていた頃に有難い助け船!

勿論私は、即答でOKサイン。フライだけでは、面白くないので、今回は、アジ本来の美味しさも知ってもらいたく、生の開きたてと、一緒に、衣をつけた物を同時に販売させていただきます。

生の開きは、味醂焼きやそのまま焼いたり、煮付け等。衣付きは、直ぐに揚げられるよう、皆さんの手間を少しでも省かせていたと考えると考えた商品になっております。

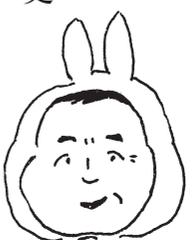
今が旬のアジ、その中でも長崎産のアジが一番脂がのっており、台風の影響も心配でしたが、しっかりと仕入れもバッチシです。祐宗店長です。

私も家族との約束を守ることができ、今から父のにやける顔が目に見えます(笑)。脂もジューシー、身もフワッフワの旬のアジを是非後堪能下さい。

西田鮮魚店 主任 奥原 歩久斗

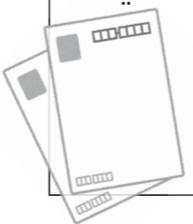
『西城に「ウイル」が無くなったたら困るので…』

鮮コーポレーション(株) 代表取締役会長 西田 昌史



こんなお葉書をいただいた。

山々の緑が日に日にあざやかに became ました。お手紙?のチラシを毎回楽しみに読ませていただいています。ファンが多いのですね。すばらしい!すばらしい!さて前回と今回の文章、とても感動して涙が出ます。すぐに涙がでます。祐宗さんのおじいちゃんもおじさんも、よく覚えています。おじさんが作っておられた?畑を今、うちが借りていて、野菜を作らせていただいております。「祐宗優司君、社長賞おめでとう」ジョイフル道の駅計画、大変でしょうが、どうぞがんばって下さい。コロナも落ち着きはじまりましたが、私は西城の『ウイル』で買い物します。西城に『ウイル』が無くなったたら困るので!!お身体ご自愛ください。



そうか、祐宗のおじさんたちのことを、ご存じだったんだ。もしかしたら母のことだって耳にされたことがあるかもしれない。これもご縁だ。毎週末、こうして手紙と称して雑文をチラシの裏に載せている身としては、内心、どう思われているだろうか、少し不安になったりする。そんな時にこのお葉書を読んで、まだ書いてもいいんだと勇気をいただけた。もうひとつ。考えさせられたことが…。

私は西城の『ウイル』で買い物をします。西城に『ウイル』が無くなったたら困るので!!

昭和の時代は近所で用が足りた。中学2年生だったか3年生だったか、『ドスキン』という生地の学生ズボンが流行ったことがある。ふつうのより、ずいぶんと高かった。大迫という友だちに見せびらかされ、母に頼みこんでお金をもらい、その大迫と2人で、奥さんが母と同級生だったという『山田洋服店』に買いに行った。母と一緒にでなかったのは初めてだった。丈を計ってもらいながら、大人になったような気がした。靴は、小学校のころから、『山田洋服店』の隣の『天野』で買っていた。私は、底が厚い白のズックしか履かなかつた。私の子供時代のオシャレのこだわり。ご主人は、黒ぶちめがねの細面のやさしそうなおじさんだった。『天野』は店に入るなり、吹き抜けの天井に天窓が切ってあった。小学生の私の目に焼きついた。

私のファッションの原点は本町の『山田洋服店』と『天野』だったようだ。

今だったら母は子供の私を、『ユニクロ』や『しまむら』に連れていくのだろうか。そして、新聞の広告チラシに載った商品を、流行りだからと買ってくれるのだろうか。しかし、車の免許を持ってなかったからムリか。それならネット

で買おうと、いっしょにパソコンをのぞき込むだろうか。

今の時代が便利であることは間違いない。豊かであることも間違いない。私自身そんな暮らしにどっぷりと浸かっている。

でも、というか、だからというか、お葉書を下さった女性の言葉が刺さる。

昭和54年『ジョイフル』が、平成7年『ウイル』が、庄原、西城で華々しくオープンした。

今、それぞれが、その役目を終え、古くなり、中に入っている店の数も減り、その存続さえ危うくなってきた。

庄原に『ジョイフル』が無くなれば困る。西城に『ウイル』が無くなれば困る。それは確かだ。無くなれば町はもともとと寂しくなる。人が出て行く。

だから、地元の店に目を向けてほしい。お店も『町づくり』の大きな力なのだから。と言って甘えは許されない。商売を営む私たち自身の努力が大前提だ。

欲しいものが無いでは話にならない。接客サービスが悪いでは話にならない。しかし、町の店のようにはいかない。

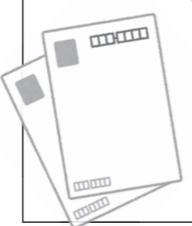
それでも思う。田舎には田舎ならではの品揃え、接客サービスがあるはずだ。

その上で初めて、『ジョイフル』で買ってください、『ウイル』で買ってくださいと言える。

お葉書を読んだあと、そんなことを考えた。

お葉書にはこうもあった。

今年、私はずっと不調でした。やる気が出なくて、とにかく寝てしまい、畑に行けず…。とんどん遅れて、トマト、キュウリ、ピーマン、ナスは、とうに植えていなければいけないのに…。まだです。18日、さつまいも100本やつと植えて…。心がぎゅっと悲しくて…。でも元気が出しました。こうしてハガキが書けますから。



わかる。私もまったく同じだ。こんな繰り返し。たぶん誰だって…。

最近思う。私も71才になった。よくぞここまで生きてきた。今まで頑張ってきたんだ。少しくらい手を抜いたからって、罰はあたらんじやろ。

それでも、しばらくさぼっていると、やる気が出たりする。不思議じゃ。

※承諾も得ず、いきなりお葉書を使わせていただきました。申し訳ありません。

驚いてもらいたくて…。